カトリック教報

カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852－8113
長崎市上野町10－34
カトリックセンター内
TEL 095－843－3869
FAX 095－843－3417
振替口座 01880－5－2699
発行人
大水文隆
印刷所
株式会社 藤木博英社

教皇さまの意向

一般　苦しむ人が私たちの共同体に迎え入れられ、慰めを受けることができますように

日本　高山右近の列福が、福音に根ざした価値観を証しする機会となりますように

全国教区広報担当者会議

人材確保・協力体制が課題

専門家による実践的研修も

昨年10月31日（月）から11月1日（火）、全国教区広報担当者会議がカトリック中央協議会（東京都江東区）で行われ、9教区（仙台・さいたま・横浜・名古屋・京都・大阪・高松・福岡・長崎）11人と、中央協議会広報担当3人の計14人が集まった。ほぼ毎年開催されるこの会議は、担当者同士の交流を深め、共に学び、情報交換をする機会となっている。

日本の16教区全体の中で、広報専従のスタッフがいる教区は少なく、兼務して携わる担当者が多い。各教区の広報の現状として、「人材がいない、人手不足」、教区のホームページ（HP）更新が「頻繁でない、止まっている」、「新しい取り組みはできていない、広報への協力体制が組織化されていない」といった声が聞かれた。また、環境・状況が異なるため、情報を伝える手段（媒体）の中心が教区報などの紙だったり、HPやSNSといったインターネットだったりと、教区によってさまざま。小教区HPに関する規約の改訂作業をしている教区や、「インターネットを見ない人たちにどう情報を伝えるか」が課題となっている教区もあった。

研修では、日本機関紙協会の白岩壽光氏を講師に迎えて「取材記事を書くためのワークショップ」と題し、取材の準備・仕方、記事の書き方・注意点、見出しの役割についての講義があった。「客観報道はありえない」「読者はそれを知らない人だという前提で書く」「事実と真実は違う。どの事実を取り上げるかで、読者にとって真実でないこともある」「原稿依頼の際は、書き方の条件を最初に相手に伝える」「迷っても最後まで書くと何とか書ける。構成を考え、とにかく最後まで書く」など、参加者らは実践に役立つ話を聞いた。2人組で互いをインタビューし、相手の「人物」を紹介する原稿を時間内に手書きする作業も行った。全員で各自の原稿を読み、気づきを出し合う。この練習法が原稿を書く一番の勉強になるという。

また、中央協議会事務局から2月7日（火）高山右近列福式や11月23日（木）に予定されている浦上教会での宗教改革500年共同記念企画に関する話を聞き（写真）、ミサをもって終了した。

長崎教区、4月に開設

子どもと女性の人権相談室

相談室担当デスク
教区本部事務局長秘書　福田真理

2002年、米国での聖職者による子どもへの性的虐待を伝える報道をきっかけに、これまで隠されていた同様の事件が明らかになりました。日本でも司教団が調査した結果、皆無ではありませんでした。このことを重く受け止めた司教団は、02年『子どもへの性的虐待に関する司教メッセージ』で、「被害者の方々に対し誠実に対応するとともに、その加害者である聖職者、修道者に対しては厳正に対処いたします」と発表しました。

同年〝子どもへの性的虐待問題に取り組むプロジェクトチーム〟が発足、03年〝子どもと女性の権利擁護のためのデスク〟をカトリック中央協議会内に設置。06年には冊子『セクシュアル・ハラスメントに気づくことから』を発行し、その中で「（教会は）教会共同体におけるセクシュアル・ハラスメントに関しては、一般社会の取り組みに比べて防止や対策に後れをとっています。アンケート調査の回答によると、『誰にも相談しなかった』という被害者が約半数を占めます。教会内の人に相談したという場合でも真の解決には至らなかったのが殆どで、かえって傷が深まってしまった」（6頁）と報告しています。その現実を踏まえた上で、その後も冊子の発行・研修会などの啓発活動に、真摯（しんし）に取り組んでいます。

16年7月、司教協議会の合意に基づき、各教区に相談窓口を設置することが要請されました。このことから長崎大司教区でも設置検討会議が段階的に行われ、17年4月に相談室開設の運びとなりました。

開設日と連絡先

・4月3日（月）

・相談室専用回線は後日、各教会にポスターやカードをお配りしてお知らせします

受付時間

・月曜日～金曜日、午前10時～午後4時（不在時は留守番電話で対応）

・電話相談後、内容に応じて面談となります（最初のご相談は、お電話でお願いいたします）

場所

・カトリックセンター内

・教区本部事務局、会議室、ホールや宿泊施設とは別室で、安心してお話ができるお部屋となっています

相談内容

・長崎大司教区で活動する聖職者、修道者によるセクシュアル・ハラスメント（対象者＝子ども、女性）、およびパワー・ハラスメント（対象者＝子ども、男性・女性）

・原則として、他教区からの相談は扱いませんが、心から寄り添い、お力になれましたら幸いです。

パウロ

糸永真一司教帰天

（鹿児島教区名誉司教）

昨年12月10日午後4時54分、急性心筋梗塞によるうっ血性心不全のため鹿児島市の天陽会中央病院で逝去。88歳。

1928年7月23日平戸市紐差町生まれ。41年長崎公教神学校、45年ラテン科に進む。46年長崎大神学校哲学科、48年福岡サン・スルピス大神学院神学科入学。51年カナダのモントリオール大学神学部に留学。52年9月14日モントリオール大神学院聖堂で司祭叙階。53年帰国。教区書記長。62年9月八幡町小教区初代主任司祭。69年11月15日福者パウロ6世から鹿児島司教に任命（12月2日発表）。70年1月18日司教叙階。2006年引退。

長崎教区在籍中は、教区書記長を経て小教区主任、幼稚園園長の他、純心女子短大で哲学を教え、教区顧問、広報委員長（1955年6月～69年12月は本紙第3代編集長）、レジオ・マリエ長崎クリア祈祷の使徒会やJOC後援会の指導司祭、カトリック幼稚園協会長、長崎教区要理教育研究会事務局長などを務め、教区の霊的発展に大きく貢献した。

葬儀ミサと告別式は12月16日、郡山健次郎司教司式によりカテドラル・ザビエル教会で行われた。

教区修女連 新年の集い

いつくしみの視点でこの一年を

大司教が講話

1月7日(土)カトリックセンターで、修道女135人が一堂に会し、高見三明大司教と指導司祭の松村信也師（イエズス会）を迎えて、新年の集いを催した。

始めに松村師が「何か不穏で危うげなこの年を、み言葉を心に宿しながらチャレンジの年として生きていきたい」とあいさつした。

続く大司教の講話のテーマは、「いつくしみの特別聖年と教区シノドスの実施継続」。まず、「特別聖年は閉幕したが、これからも神のいつくしみを喜び祝い、その視点で自分の信仰を見つめ直して生きていく年としたい」と語り、その視点から、日本の殉教者、高山右近、転びキリシタン、長崎キリシタンらの生きざまを取り上げた。

また、回勅『ラウダート・シ』を要約し、「人間の生は、神と他者と大地との関係から成っていて、全ては繋がっている。環境問題も物質面だけでなく、人間の心、正義、自由、愛、平和の問題でもある」と説いた。

最後に、教区シノドス提言実施の具体的な目標などを紹介。ミサをささげて集いを終えた。

大司教の講話に耳を傾ける参加者

4年ぶりの恵みに感謝

お告げのマリア修道会、初誓願

働き人の決意新たに

1月9日（月）お告げのマリア修道会本部聖堂（長崎市小江原）で、高見三明大司教の司式により初誓願式が行われた。誓願を宣立したのは、飽の浦教会出身の西田朋美修道女（写真右）。本会にとっては4年ぶりの初誓願の恵みであった。

1人の誓願式であったが、40人の司祭と200人近くの参加者がミサの中で若いシスターの誕生を見守り、これからの修道生活の上に神の祝福を祈った。式後は会場を移して、会員手作りの料理の並ぶテーブルを囲み、喜びを分かち合った。祝いの席では、友人の声楽家による「アヴェ・マリア」の歌も披露され、お祝いと祈りの雰囲気が高められた。会食の中で大司教は、初誓願者の兄で、日本カトリック神学院に在学している西田祐尚神学生が3月12日に助祭・司祭候補者認定式を受けることに言及し、彼の召命のためにも祈ってほしいと参加者に願った。

司祭・修道者への召命が激減している今日、教会のための働き人が与えられるよう具体的に働き祈ることの必要性をあらためて強く感じた。初誓願の喜びと感謝、教会のために働く決意を新たにした1日であった。

Sr. 下窄優美

ほしかげ

私の親しい司祭がウオーキングマシンを購入した。日頃の運動不足を解消し、散々だった生活習慣病健診の数値改善が目標だ。誰かにこのことを伝えておかないとさぼり癖がつくから、と私に打ち明けたのだ。私だけでは心もとないので、さらに多くの人に知っていただき、励みにしてもらいたい▲誰もが経験することだが、やらなければならないからとそれに着手したとしても、やりたくないことを継続するのは難しい。あれやこれやと言い訳を探し、ついにはやることの必要性さえも否定してしまう。結局、やらざるを得ない状況に追い込まれないと、なかなか人は変われないようだ▲教区シノドス公式提言発表後、カテキスタ養成、ボランティア組織「ミゼリコルディア長崎」の創設、小共同体づくりの推進に取り組むことになったが、特に、小共同体づくりは、その必要性の認識も共有されていないのが現状ではないかと思われる。しかしこれらの取り組みは、まさに長崎教区の体質改善を目標としている。10年後、20年後、生き生きとした信仰共同体として、キリストの福音を証しする教区を目指しているのだ▲本年の「年頭教書」を読んでいただいたことだろう。トップが号令をかければ組織全体が動くと期待しているわけではないが、少なくとも耳を傾けてもらえたらと思う。小共同体づくり推進の訴えが、少しずつでも浸透することを願いたい。（S）

高山右近列福へのカテケージス ⑥

ユスト高山右近という生き方

― 祈りの生まれるところ ―

列聖推進委員会　古巣 馨

◆陽だまりの女預言者たち

小春日和に誘われて、その日、公園の陽だまりはひときわにぎやかでした。

「このごろは、目の弱あなってしもうて、難儀ばよなぁ。」「なんの、目だけならよかばって、うちは耳も遠なってしもうて、よかところはなぁもなか。」「うちもおんなじたいね。ばってんこん口だけは、なぁしてか達者かとばよなぁ。」すかさず、隣であいづちを打つ老女が後を受けます。「普段はボケたふりして黙っとるばって、うちがそん気になって口ば開けば、まぁだ息子や嫁だぁ、ぐうの音も出んもんな。なぁんの、見えんとも聞こえんとも、本当はうったちよりも、息子や嫁どんのほうたな。なんば見とっとじゃろ！」

途端に、通りの喧騒をしのぐ老女たちの歓声が、公園中に立ち上がりました。聞き耳を立てて一緒に笑ってはみたものの、イザヤまがいの老女の預言に、私は肩をすぼめて退散しました。「あなたたちは聞くには聞くが、決して理解せず、見るには見るが、決して認めない。この民の心は鈍り、耳は遠くなり、目は閉じてしまった」（マタイ13・14～15、イザヤ6・9～10）。小難しい理屈と通り一遍の講釈にすり替えられた福音は、風に吹き飛ばされるもみ殻のように、人の心にとどまることはありません。心が鈍り、静けさも深い神秘も失ってしまった教会から、いつしか人は去り、すきま風が吹くようになりました。

かすかな音は大きな音に消されてしまいます。強音に引きずられて弱音を聴けなくなったいびつな世界で、かぼそい吐息だけが小さい者たちの生きている証しです。「命の言」（ヨハネ1・4、Ⅰヨハネ1・1）となって人の間に宿られたイエスが、真っ先に向かったのは弱音の世界でした。「神は沈黙の友です。わたしたちは神を見つけなければなりません。騒音や興奮の中に神を見いだすことはできません。……沈黙はすべてのものをまったく新しい視点から見せてくれます。魂に触れるためには沈黙が必要なのです」（マザー・テレサ）。沈黙の中で神の思いを聞き取った女預言者が向かった先は、いつもイエスと同じ弱音の世界でした。

群雄割拠する戦国時代、教会は、競争に耐えられず道端に倒れた人たちの傍らにありました。そのただ中に、誰よりも弱音を聞き分けることにたけた高山右近がいました。秘訣は、右近の信仰を育んだ茶の湯でした。彼は、日本の深い精神性とイエスの福音との出会いを体現した信仰者でした。

◆茶の湯と右近と福音と

茶の湯の歴史は元来、禅宗とのかかわりに由来します。中国の禅院には「清規」と呼ばれる行儀作法があり、これが日本に取り入れられたといわれます。右近の茶の師匠だった千 利休の茶は「侘び茶」と呼ばれますが、その始まりは村田珠光で、弟子が武野紹鷗、利休は紹鷗の弟子になります。

右近は、主君荒木村重を通して利休に出会います。『津田宗及茶日記』によると、1577年12月6日、荒木村重の朝会に続いて、右近の夜会が同じ京都で開かれ、千宗易（利休）と津田宗及が招かれています。茶室には、炉に平釜を自在竹で釣るし、床には胡銅の花入を薄板に据え、白梅を生けるといった趣向でした。茶がすすめられ、その後の振る舞いは、牛蒡、菜汁、椎茸の刺身、飯、芋田楽といった質素なものでした。これは、荒木村重の朝会が三の膳まで揃った贅沢なものであったことを伝え聞き、あえて侘びた取り合わせに心を配ったとされ、この時25歳の右近は、はやひとかどの茶人であったことがわかります。

そして3年後の荒木村重事件を境に、右近は利休の侘び茶の世界にのめり込んでいきます。利休の茶の湯は町の喧騒から離れて、隠遁生活に道を求めるのではなく、町の中でも「山里の閑居」を得て、静けさと安らぎと精神を高めるというものでした。そのため利休は茶室にもこだわり、従来の書院造から四畳半、三畳、二畳、一畳半まで、茶室を小さくし、戸口にはにじり口を設け、慎み、謙虚さ、質素さを求めました。宣教師に差し出された日本の精神性は「市中の山居」であり、そこには、救いのために降りてこられたイエスの徹底した貧しさと、謙虚さに出会う「にじり口」がありました。茶の湯の道をめざした多くの武人が、やがてキリストのにじり口をくぐった理由がここにあります。

表千家四代目の家元江岑宗左の『江岑夏書』には、利休7人の高弟の名前が記されています。順番に、蒲生氏郷、高山右近、細川忠興、芝山監物、瀬田掃部、牧村政治、古田織部。うち4人がキリスト者です。やがて、利休は1580年の茶会で「ハタノソリタル茶碗」（口縁部がそり返った茶碗）と「カタノタレタル釜」（肩が下がっている釜）などを使い始め、型に縛られず、ゆがみやひずみを通して、自由な個性を大切にする発想を取り入れていきます。古田織部、牧村政治たちが利休の流れを受け継いでいきますが、その中でも、利休の解き放たれた自由さと侘びの精神をもっとも忠実に受け継いだのが右近だといいます。

◆捨ててこそ

1587年7月23日、右近に棄教を迫った秀吉が二度目に遣わした使者は、茶の湯の師匠千 利休でした。その時のやり取りが、表千家六代目家元覚々斎の覚書に残されています。「高山ウコンと云人、切支丹のころひニて候由、御改の時やらぬに、宗易へ申候、ころひませうかと申候へハ、宗易返事ニハ、ころひ候へて可然と申遣し候由、乍去それにては茶はのまれましきよし申遣候へは、成ほとかつてんしやといふて、切支丹こくとやらぬへ参候由」（『覚々斎覚書』）

右近は、はじめから信仰を捨てる気持ちなどありませんでした。しかしこの時、利休に確かめたかったのです。「右近よ、お前が命がけで守ってきたものを捨ててしまったら、お前の茶も何の価値もなくなる。そうなったらもう一緒に茶を飲むこともあるまい。」利休の一言が右近を納得させたといいます。信仰を深めるほどに、右近の茶の湯も深みを増し、研ぎ澄まされていきます。捨ててこそ出会える世界、解き放たれた自由さ、それが利休の茶の心でした。キリストに出会った右近は、すでに利休の世界を越え、新たな道へと招かれていました。あの時、右近説得のために遣わされた利休は、右近のおもねることのない凛とした態度をほめたといいます。この事件から3年後、利休は秀吉から死を命じられ、切腹して果てていきます。彼もまた、強者におもねて自分の生き方を曲げることをしない茶人でした。

大名職を改易された後、右近は好んで自らを「南坊」と名乗りました。金沢への追放後も、右近は沈黙の中で神を想い、その心を聴くために茶室を瞑想の場にしました。右近の信仰を育んだ茶の湯の特徴は6つにまとめられます。人と会し、その触れ合いとかかわりを大事にし、主人と客が心をひとつにして美しく生きることを語り合う「一座建立」。これが最後の、一回きりの出会いだと考え、主人と客が一対一で向き合う「一期一会」。茶の道具、掛け軸、茶碗などを鑑賞しながら、そこに潜んでいる精神を探し求めようとする「求道性」。日々の煩雑な仕事と人とのかかわりから完全に離れて、沈黙と静寂の時をもつ「市中の山居」。調和、尊厳、清浄、孤独の茶室で深く人格の尊厳を学ぶ「和敬清寂」。聖と俗、清と濁、光と闇のはざまで苦悩する茶。極限まで茶室を小さくしたのは、自分を徹底的に追い込んで決断を迫ることを表した「二律背反」の精神でした。

◆祈りの先に

ジョアン・ロドリゲスは、右近の霊性の出処を突き止めて言います。「高山ユストはこの芸道（茶の湯）で日本における第一人者であり、そのように厚く尊敬されていて、この道に身を投じてその目的を真実に貫く者には、数寄が修徳と潜心のために大きな助けとなるとわかった」とよく言っていた。我々もそれを時折彼から聞いたのである。それゆえ、神にすがるために落ち着いて潜心することができたのである」（『日本教会史』）。ヴァリニャーノの『イエズス会礼法指針』には、イエズス会の各修道院は必ず茶室を設けるように指示されています。右近を通して日本の精神文化がイエスの福音の受け皿となったのです。

右近にとって茶の湯は、時の数寄者や傾奇者の風流を極めた芸道ではなく、ひたすら神の思いを尋ねるための沈黙の所作でした。だから、身をかがめて茶室のにじり口を出た先にはいつも、望みなく、頼りなく、心細く生きる人たちの弱音の世界がありました。人は、「もし存在するすべてのものと密接に結ばれていると感じるなら、節制と気遣いがおのずと湧き出て」（教皇フランシスコ回勅『ラウダート・シ』77）、新たな家族を見つけます。どこに行っても、右近は生涯、ミゼリコルディアの組の一員でした。

「沈黙の実りは祈り　祈りの実りは信仰　信仰の実りは愛　愛の実りは奉仕　奉仕の実りは平和」（マザー・テレサ）。あの女預言者の名刺に記された言葉は、400年前「寿子」と名乗った預言者によってそのまま体現されていました。あなたの祈りはどこから生まれていますか、その祈りの先には何がありますか。

2016年度
臨時司教総会

『いのちへのまなざし』改訂案を承認

今春刊行へ

2016年度の臨時司教総会が昨年12月14～15日、東京・日本カトリック会館で行われた。15人の司教と男女修道会の代表者らオブザーバーが集まり、審議を行った（写真）。

今回は2001年発行の司教団メッセージ『いのちへのまなざし』について、内容を刷新し新たな項目が付け加えられるなどした改訂案を検討、修正が加わり承認された。タイトルは『いのちへのまなざし【増補新版】』と決まり、今春刊行の予定。そのほか、次年度から会計年度が1月～12月と変更になったことにより、17年度の予算が審議承認された。典礼では、「ニケア・コンスタンチノープル信条」「使徒信条」の旋律が認可され、17年の四旬節第1主日（3月5日）から使用することとなった。また、「性虐待被害者のための祈りと償いの日」設定にあたっての司教団メッセージも承認された（3面参照）。

14日夜には、司教らは麹町教会に移動し、300人余の参加者のもと、回勅『ラウダート・シ』、『今こそ原発の廃止を』両書籍の出版記念シンポジウム（日本カトリック司教協議会社会司教委員会主催）を行った。

✝主の平安
株式会社 五島式典社（斎場）五島中央会館 奈留会館
代表取締役　ヨゼフ　浦　昭
24時間営業
五島市上大津町 1385 番地 1　TEL (0959) 74－5551　FAX (0959) 74－5552
五島市奈留町浦 1899－1　TEL (0959) 64－3101　FAX (0959) 64－3102

長崎カトリックセンター前　長崎市上野町1-5　TEL 095-845-6175
医療法人 平田クリニック
院長　ヨゼフ 平田哲也
内科・循環器科・入院可
通所リハビリテーションあり

交通誘導警備　常駐警備　イベント警備
（有）小田警備保障
警備員募集！
電話 095-856-6524　FAX 095-856-6523
長崎市横尾３丁目 31-15　代表取締役 パウロ　小田　睦

タンスの中身は入れたまま
責任ある安全運送!!
（見積り無料・荷造り発送も致します）
貨物保険有り
・一般引越　・小荷物
・荒ゴミ捨て　・遠距離
・学生引越　・ピアノ運搬
24時間営業・年中無休
受付時間 7：00～22：00
水浦運送
シモン　水浦　幹雄
長崎市上野町12－3
TEL(095)(代)847－7151
844－1420

石碑
文字彫刻
墓地工事
リフォーム
墓地分譲
ながさきせきちょう
長崎石彫
ヨゼフ　岩永　博明
☎(095)862-2469
長崎市梁川町 6-17　岩永ビル

人と人の絆を大切に・ご葬儀のご相談は
メモリードホール・典礼会館・中央斎場
長崎・諫早・大村・佐世保
株式会社メモリード　メモリード葬祭　検索　事務局　ペトロ　田川慶司
0120-44-6666

楽しく、真摯な活動を

南地区青年クリスマス会

昨年12月23日（金）、クリスマス時期の恒例行事として、長崎南地区青年会主催のクリスマス会を中町教会信徒会館ホールで開催しました。

今回のスタッフ・参加者は、ほぼ長崎南地区青年会のメンバーとなりましたが、イエス様の御降誕をお祝いしながら、楽しく過ごすことができました。

始めに光の集いを行い、キャンドルサービスやテゼの歌、聖書朗読を通して、イエス様の聖誕に思いをはせました。その後のパーティーでは、それぞれが持ち寄った一品料理で食卓を囲み、談笑しながらクリスマスの喜びを分かち合いました。ビンゴ大会では、「2列そろった人はプレゼントをゲットできる」というルールで行ったのですが、それぞれの持つカードの番号が空いたり空かなかったりで、一喜一憂していました。

毎年このようにしてクリスマスを祝えることは喜ばしいことです。このような時間を大切にして、楽しく、そして真摯（しんし）にそれぞれが持っている信仰に向き合える活動をしていくことができればと思います。

小ヶ倉教会　橋本裕紀

日本司教団メッセージ

〝性虐待被害者のための祈りと償いの日〟発表

日本司教団は昨年12月14日、日本における「性虐待被害者のための祈りと償いの日」を四旬節第2金曜日に設定したと発表した。第1回は3月17日（金）。

2002年の米国・ボストンでの聖職者による子どもへの性虐待事件を発端として、世界各地で明るみに出た同様の事件。教皇フランシスコは自らこの問題に取り組むと同時に、全教会がこの問題に真摯（しんし）に向き合うよう促し、全世界の司教協議会に対して「祈りと償いの日」を定めるよう通達していた。

教皇の意向は次のとおり。①子どもへの性虐待の罪に対し、神からのゆるしを願う。②これらの犯罪が、教会のメンバーによって行われたことを公に認める。③教会の権威者たちが加害者を秘匿し、被害者の痛みを無視した罪について、神のゆるしを願う。④被害者のケアは、教会のメンバーすべての責任であることを、皆が認識できるよう恵みを願う。⑤被害者とその家族のために神のいやしと支えを願い、教会がその人々の内的いやしと和解の歩みに寄り添うことができるよう祈る。⑥被害者から何らかの反応があった場合、特別な司牧的な配慮をもってすぐに応える。

各教区では司教の呼び掛けに従い、四旬節中や前後の日曜日などに、祈りと償い、被害者の痛みを学ぶ機会を作っていく。司教団は「重ねて自らを正し、教会の刷新に励んでいきたい」とメッセージを結んでいる。

『カトリック教報』配布に関するお願い

近年、信者でない方のお宅に、『カトリック教報』が郵送・配布されるケースが増えています。購読者の転居や転出によるものと思われますので、お手数ですが担当者はご確認ください。また信徒の皆様にも、転居の際は所属小教区に連絡いただきますようお願いいたします。

教区広報委員会

典礼を深める研修

お告げ主催、ミサ総則を学ぶ

新しい『ローマ・ミサ典礼書の総則』に基づき、変更箇所について学ぶための研修会が、お告げのマリア修道会の主催で開催された。本研修は昨年9月に長崎大司教区で開催されたものを、さらにより多くの会員で学びたいとの要望で実現したもので、信徒への公開の形で実施された。

研修会は、12月11日（日）午後1時30分から5時まで同会佐世保修道院（写真）で、12日（月）午前10時30分から午後2時まで同会本部（長崎市小江原）で行われた。両会場合わせて、小教区などで典礼奉仕に関わっている11人の信徒を含む90人余が参加した。

講師は9月と同じく日本カトリック典礼委員会秘書の宮越俊光氏。変更の内容や具体的な対応について事前に提出された質問に答えるという形の学びで、微妙な、あるいは細かい疑問を提示しながらの具体的な研修となった。身近な事柄の質疑に、宮越氏は丁寧に応じられ、多くの質疑応答もなされた。規定はあるが全く同じ典礼にはならないのは、共同体の状況や個性によるものであると気づかされた。

典礼の意義をより深めるとともに、すっきりとしたミサの準備、参加に役立つものとなった。

Sr. 下窄優美

スポーツと食事で交流

中地区青年会が新年会

1月7日（土）長崎中地区青年会の新年会を開催しました。午後から大司教館の体育館でスポーツ交流、浦上教会の午後7時のミサ後、食事会を行いました。

残念ながらスポーツ交流にはほとんど人数が集まりませんでしたが、小神学生を交えてソフトバレーをしました。食事会には、西町教会から神父様とブラザーを含め5人の参加があり、合計11人で楽しいひと時を過ごしました。

中地区では、青年会活動に参加する青年が非常に少なくなっており、毎週木曜日午後7時半に大司教館の体育館でスポーツ交流を細々とやっているくらいです。地区には大きな小教区もありますので、これらの教会と連携・協力しながら、少しでも活動を盛り上げていくために活動していく予定です。

また、お近くに青年がいらっしゃれば、青年会の存在や活動をお伝えいただき、一人でも多くの青年に集まっていただければと思います。

浦上助任　山内啓輔

黙想や巡礼を通して他地区青年との交流も＝昨年5月、教区召命委員会主催「巡礼ウオーク in 県北」

教区顧問会

行事日程を審議

2月12日に右近列福感謝ミサ

教区顧問会が12月13日（火）、大司教館で開催された。主な審議事項は次のとおり。

・大崎教会信徒会館新築をはじめ、植松教会、桐教会の改修工事、浦上教会の内装工事の件が審議され、承認された。

・『子どもと女性の権利擁護デスク』の立ち上げについて審議され、2017年度から相談窓口が開設されることになった（本紙1面参照）。

・来年度の教区の主要行事日程が確定した。ただし、2017年は浦上四番崩れから150年に当たり、教区としてこれを記念することになったが、日程については後日確定する。

主な報告・確認事項は次のとおり。

・江上教会（国指定重要文化財）が2016年12月から改修工事に入るため、工事期間中は境内立ち入りが禁止となる。

・ユスト高山右近の列福式に出席するため来日するフィリピンのマニラ大司教ルイス・アントニオ・タグレ枢機卿が、2月2～4日、長崎を訪問する。

・ユスト高山右近の列福を感謝して、2月12日（日）午後6時、浦上教会で動画の上映会とミサを、教区主催で行う。各小教区でも、できるだけ早期に感謝ミサを行うように通知する。

短信

〈堅信式〉

稲佐教会では昨年11月27日㈰に中学生6人が、浦上教会では1月8日㈰に中学生25、大人7の計32人が、堅信の秘跡を受けた。

〈ウルトレヤ終わる〉

長崎教区でのクルシリヨ50周年を記念し、昨年9月から各地区で開催されきたウルトレヤは、11月23日㈬平戸地区・田平教会（参加者123人）と1月9日㈪長崎地区・浦上教会（同260人）での集いをもって終了した。5つの地区で計728人のクルシリスタが集まり、思いを新たにした。

感謝

―香典返し―

●野上佐代子様（飽の浦）故ミカエル野上安男様

●岩崎幸好様（小ヶ倉）故ヨアンナ岩崎房枝様

右の方々からご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

愛とは？　結婚とは？　そして幸せな家庭とは？

2017年〈春〉

結婚講座のご案内

教区家庭委員会

カトリック教会で結婚することの
意味を学びながら
対話を通して２人の関わりを深め
幸せな結婚生活をめざして
心の準備をしていきます

◆日　　時　4月25日～6月27日　午後7時～8時45分
　　＊毎週火曜日の連続10回
◆場　　所　カトリックセンター２階講堂
◆受 講 費　1人8,000円（当日受付にて）
◆定　　員　40名（20組になり次第、締め切ります）
◆申込方法　「申込書」に必要事項をご記入の上、郵送で下記へお申し込みください。詳細は所属小教区の主任司祭にお尋ねください。
◆申 込 先　〒852-8113 長崎市上野町10-34
　　カトリックセンター内「家庭委員会」
◆連 絡 先　Tel 095-842-4450　Fax 095-842-4460
　　（担当：辻）

回	月　日	講　師	テーマ	内　容
1	4月 25日	司　祭	カトリック教会の結婚観と愛	開講式
2	5月　2日	信　徒	夫婦愛を育てる新婚時代	「対話の道しるべ」を使って、互いに対話の実習・作業などを通して学んでいきます。
3	9日	信　徒	カップル間に豊かな対話を	対話の大切さを学びつつ、互いに感情を言葉で言い表すことを学んでいきます。
4	16日	信徒夫妻	愛を育てる家庭経済	「あなたはかけがえのない」人であることを学び、互いに愛を分かち合っていきます。
5	23日	医療関係者	素晴らしい性といのち	「神は人を男と女とに造られた」という、そのいのちの神秘を味わいつつ、互いのいのちを尊重していきます。
6	30日	医療関係者	２人で迎える新しい《いのち》	「ビリングス・メソッド」排卵法を学び、生まれてくる新しいいのちを育む大切さを学んでいきます。
7	6月　6日	信徒夫妻	よりよき夫と妻、父と母をめざして	いのちの誕生の神秘とその喜びを学び、より良き妻、夫となることの素晴らしさを学んでいきます。
8	13日	信　徒	２人で歩む道の価値観	いのちの叫びと生まれてくることの喜びを心から受け止め、２人で分かち合っていきます。
9	20日	司　祭	結ばれた２人の道	「神が結び合わせたものを人が離してはならない」という教えを心に留めて、最後まで歩み続けましょう。
10	27日	司　祭	カトリック教会における異宗婚	修了式

将来を語れる子どもに

夢cafe…ひまわり

ボランティアによる学習支援

長崎市坂本にある「夢cafe…ひまわり」は、不登校やひきこもりになったり、家庭の事情で塾に通えず、勉強にもついていけなかったりする子どもたちのため、2014年10月に開設された。運営するのは、フリースクール「ドリーム・カム・ホーム」（長崎市曙町）代表の川井健蔵さん（浦上教会所属、69）。

「高校に進学させることが一番の目標」と中学生を対象に開いた「ひまわり」だったが、川井さんによると、週3回、火・木・金曜の夕方に訪れて来るのは合わせて10人余の小中高生。無料の学習支援教室で指導にあたるのは、現役の高校・大学の教師や会社員らボランティアだという。

長崎教区内における「ひまわり」への具体的な支援は、クリスマス募金からの支援50万円の他に、長崎北地区女性部による週1回木曜日のカレー提供がある。川井さんは、「材料費をこちらからお渡ししているとしても、30～40人分のカレーづくりのために毎回、材料の買い出しや調理、出来上がったものを運んでいただく時間と労力を思うと、本当にありがたく大変助かっています」と感謝している。

カレーを受け取る川井さん（右）

また、「以前、『ひまわり』の取り組みがマスコミで取り上げられ、寄付金や物的支援が寄せられるようになりました。一方で、注目されたことによって（置かれている状況が）〝底辺〟にある子どもたちは来なくなってしまいました。支援を必要としている子どもたちがいる限り、この活動を続けていきたい。子どもたちが自分の将来のことを語れるようになる姿には希望を感じますから。今後、家賃がかからない場所の提供や活動の周知、支援協力を呼び掛け、お願いしていきたいと思います」と語っていた。

カリタス大槌ベースボランティア宿泊所は、3月31日をもちまして閉所します。5年にわたる皆様のご協力に、深く感謝いたします。

「大槌ベース宿泊所」閉所のお知らせ

最後のボランティア期間と募集締め切りは次のとおりです。

● 3月9日㈭～15日㈬　（2/8締切）

申し込みは所属小教区へ。問い合わせは教区本部事務局（松尾）まで。

TEL 095-842-4450　FAX 095-842-4460

新刊良書

★キリストを生きる
著＝トマス・ア・ケンピス　訳＝山内清海

聖書に次いで最も広く読まれていると評価される『キリストに倣いて』（De imitatione Christi）。日本においても初期教会時代から親しまれ、聖イグナチオ・デ・ロヨラの『霊操』と共に、福者ユスト高山右近の信仰に大きな影響を与えた。

『キリストを生きる』と改題された本書は、ラテン語原文に忠実ながらも、平易な日本語で訳されている。さらにフランシスコ会聖書研究所訳『聖書』をはじめ、『第二バチカン公会議公文書――改訂公式訳』『カトリック教会のカテキズム』に基づく教会用語の統一と訳者による注は、読者の理解を深める大きな助けとなる。文芸社、税別900円。

★★★

★祈りの道をゆく――長崎巡礼
著＝山中寛　監修＝まるちれす研究会

長与教会の信徒であり、高校で世界史の教鞭を執っていた著者が自ら、時には生徒たちと共に現地を訪ね、その資料を巡礼案内書としてまとめた。長崎教区内の巡礼地・史跡・教会堂の歴史や情報が掲載されている。

巡礼コースは、キリスト教が伝えられた地域の順番を考慮し、(1)平戸 (2)西彼杵半島 (3)長崎 (4)大村 (5)島原半島の5つを設定。各コースとも長崎駅を起点に、車を使ってのタイムスケジュールが添えられている。小旅行や地域学習にも最適。まるちれす研究会、税別700円。

わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。
（マタイ28・20）

みことばにふれて 134

田村鏡子シスター（純心聖母会）

「次は神父様方による歌です。準備はよろしいでしょうか」

昨年の9月18日、西町教会ではミサ後、敬老のお祝い茶話会がありました。落語あり、踊りあり、クイズあり、その他いろいろ……。その中の一コマです。

主任神父様によるギター演奏で、西町教会の神父様方とブラザーによる歌が始まりました。力いっぱいギターを演奏しているポーランドのJ神父様をはじめとして、ベトナムのD神父様、インドネシアのCブラザーによる歌でした。外国語でその意味は分かりませんでしたが、伝わってくるものがありました。一生懸命に歌っているお姿を拝見し、その歌を聴きながら、いろいろな想いが迫ってきました。

――1549年、ザビエルによって伝えられた福音。「みことばは人となって私たちの間に住まわれた」ことを知った16世紀の日本の人々。福音が広まり、迫害され、途絶えていった。そう思われていた時の信徒の発見。約250年間にも及ぶ信徒の心と体の苦しみ。その中で、その時は感じられなかったかもしれないが、主がいつも共におられ、聖母が見守り支えてくださっていた。今、そのことが明らかにされ浮き彫りにされていると感じている。

例えば、聖母被昇天の祭日、8月15日は聖フランシスコ・ザビエルが鹿児島に上陸した日、そして終戦記念日。12月8日は無原罪の聖マリアの祭日で、真珠湾攻撃の日。激しい迫害の中で責められ囚われている人に慰めを与える聖母。大浦天主堂のサンタ・マリアのご像のもとでの信徒発見。原爆の被爆マリアの御像等々。聖母マリア様が私たちに手を差し伸べ、御子イエス・キリストへと導いておられる。

主がこの世界で多くの国の人々の心に触れ、みことばに触れた人々はそれを伝えようと、国境を越え、文化の違いを超えて生涯をささげて歩んでいる。――

福音が実を結ぶようにと来日し、日々種まきをしてくださっておられる宣教師たち。国籍はいろいろ異なっていても、ひとつになって主を賛美し、信者へのお祝いのため壇上で楽しそうに全身で歌っているその姿に、みことばの証しを見るような気がしました。ザビエルが伝えた福音は、神のいつくしみ。神は人となり私たちのただ中に住まわれ、いつも共にいてくださる。壇上の姿と歌声は、そのことを発信しているようでした。ギターの音が終わるとともに大きな拍手の中で声が響きました。

「もってこーい　もってこーい」

神様の大きな御手の中で、お祝い会はお昼ごろまで続きました。

お知らせ

〈住所の変更〉

●「みさかえの園のぞみの家」の住所表示が変更となりました。新住所は、「諫早市小長井町遠竹2727番地1」です。

ぶどう園

▼映画『ずっと、いっしょ。』上映会　2月12日㈰13時、カトリックセンター。入場料500円。主催・長崎南地区家庭委員会。

▼ユスト高山右近列福感謝ミサ　2月12日㈰18時「列福式」上映会、18時半ミサ、浦上教会。

▼講習会「家庭での四旬節・復活節の過ごし方を考えよう」　2月19日㈰13時～14時半、カトリックセンター。講師・中濱敬司師。主催・長崎中地区家庭委員会。

▼パイプオルガンコンサート&レクチャー～浦上四番崩れから150年を迎えて～　2月19日㈰15時、浦上教会。入場無料。オルガン・吉田恵、レクチャー・深堀彩香。同実行委員会主催。髙見大司教推薦。浦上教会協力。

カトリック月刊誌『福音宣教』2017年のご案内

年間テーマ――みことばを生きる

■特別企画
対談「これからの社会と宗教のあり方を考える」
英隆一朗＋平野克己／ネルケ無方／中島岳志

■新連載
竹田文彦、有沢螢、小林由加、山口里子／牧野幸子

・年間購読料　6300円（年11回／8・9月合併号）
・お申し込み
郵便振替用紙で購読料をお振り込みください
・振替口座
00170-2-84745
・加入者名
オリエンス宗教研究所
・お問い合わせ
オリエンス宗教研究所
TEL 03-3322-7601
FAX 03-3325-5322
http://www.oriens.or.jp/

＊カトリック書店でも購入できます（1部540円）

ヨゼフ 鳥瀬秋雄さん

（鳥瀬文武師の父）

昨年12月13日、平戸市内の病院で逝去。91歳。

1925年7月19日平戸市生まれ。20歳の時長崎で被爆し23歳で結婚、7人の子どもに恵まれた。そのうち一人を司祭に、二人を修道者としてささげた。病と闘いながらも愚痴をこぼすことなく、農業・畜産業・出稼ぎで家族を養った。

鳥瀬文武師は「父の一生は家族のために捧げた人生でした。『今は神のもとで、先に天に召された祖父母や兄弟姉妹とゆっくり休んでください。残された母は、子どもたちがしっかり支えていきます。時には母の夢の中に現れてください』と父に言いたい」と語った。

葬儀ミサ・告別式は12月15日、鳥瀬師司式により上神崎教会で行われた。

白蟻調査無料・駆除予防工事5ケ年保証付
白蟻防除施工士
大田白蟻研究所
代表者　マリア　大島睦子
（〒850-0811）長崎市矢の平1丁目14番15号
☎長崎 095－822－8436（ハヨミロ）
FAX 095－822－8488

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式
（有）栄光式典社
代表取締役　ヨハネ　西村勇二
長崎市辻町7-18　TEL(095)844-4011
24時間営業　FAX(095)843-9896

マイホームの美容と健康に！
（有）山川塗装
有限責任中間法人　全国住宅火災防止協会
長崎県建物営繕工事業協同組合理事
代表取締役　ペトロ　山川　進
佐世保市原分町1715-5
TEL(0956)49-3330　FAX(0956)49-8729

注文家具の店　家庭祭壇・聖具・祭壇・長椅子・朗読台
佳織木工所
kaori-mokkousho.com
《家庭祭壇ギャラリーOPEN　パンフレットもございます。》
〒857-0032 佐世保市宮田町7-7
☎0956（23）1867
代表 ラウラ・ビクーニア 濱口　佳織

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網
エテルナ・ワコー（株）
代表取締役　ミカエル　溝口　晃
〒858－0926　佐世保市大潟町586
TEL(0956)47－4380

ご先祖に心より感謝を・・・
材石治明
長崎本店　長崎市城栄町13-1　電話（095）846-3598
大村店　大村市民霊園内　電話（0957）50-3008